

(参考) 平成14年平均消費者物価地域差指数の概況

- (1) 平成14年平均消費者物価地域差指数(全国平均=100)を地方別にみると、持家の帰属家賃を除く総合指数は、北海道が103.1と最も高く、次いで関東が102.7、近畿が101.7となっている。一方、最も低いのは、沖縄の94.7で、次いで九州が97.0、四国が97.6となっている。
- (2) 都市階級別にみると、大都市が104.5、中都市が100.0、小都市Aが98.4、小都市Bが97.1、町村が97.5となっており、大都市の指数は町村に比べ7.2%高くなっている。
- (3) 都道府県庁所在市別にみると、東京都区部が109.8と最も高く、次いで横浜市が108.6、大阪市が106.8、京都市が104.9、名古屋市が104.8の順が続いている。一方、最も低いのは、那覇市の97.0で、東京都区部に比べ13.2%低くなっており、次いで松山市が97.7、宮崎市が98.4、徳島市が99.0の順が続いている。

地方別消費者物価地域差指数

